

4.5 その他の臨海部における活性化方策

4.5.1 その他の臨海部の現状

その他の臨海部は、以下のような交通条件、立地条件、地理的条件を有しています。



※航空写真は大阪府より提供

図 その他の臨海部の概観

<交通条件>

- 市街地からの公共アクセスはバスに限られ、その利便性も高くありません。

<立地条件>

- 土地利用は主に工業用地であり、地域内には数多くの工場等が立地し、一部で工場見学等の活動を行っています。
- 水際線は主に民間企業による専用岸壁として利用されています。

<地理的条件>

- 埋立地に囲まれた広大な泊地を有しています(北泊地、南泊地、西泊地、浜寺泊地)。

4.5.2 活性化コンセプト等

(1) 活性化コンセプト

当地区は堺臨海工業地帯に多数の工場群を有しており工場見学やクルーズなどが実施されています。一方で、臨海部全体として取り組むべき環境問題を抱えています。

以上より、「産業観光」と「水と緑の環境改善」に着目した

「物流・産業機能と共存した観光産業や質の高い水と緑の 環境空間の形成」

を重点対象地域を包括するエリアの活性化コンセプトとし、「アーバン・アグロ・テクノツーリズム」を戦略プログラムとして施策を展開します。

(2) 取組み内容

堺市のみならず近畿の経済活動を支える物流・産業機能は維持・拡充しつつ、工場見学やダイナミックな景観を観光に結びつける（アーバン）とともに、景観や環境面だけでなく減災にも寄与する質が高くボリュームのある緑地の確保、港奥部の閉鎖性海域の環境改善に取り組みます（テクノ、アグロ）。

(3) 主な対象者

- ・近隣府縣市等の国内からの来訪者
- ・立地企業

4.5.3 利活用ゾーニング

その他の臨海部の活性化コンセプトである「物流・産業機能と共存した産業観光や質の高い水と緑の環境空間の形成」を実現するため、利活用ゾーニングを以下のとおりとしました。

当地域は広大な泊地を有し、それぞれ湾奥部に位置しており、水質改善を図る必要があることから、「**水質改善ゾーン**」と位置づける。堺の臨海工業地帯を支える工場が立ち並ぶエリアは、企業の生産工程やPR館やダイナミックな工場景観を観光資源としての利活用を図るため、「**観光促進ゾーン**」と位置づける。

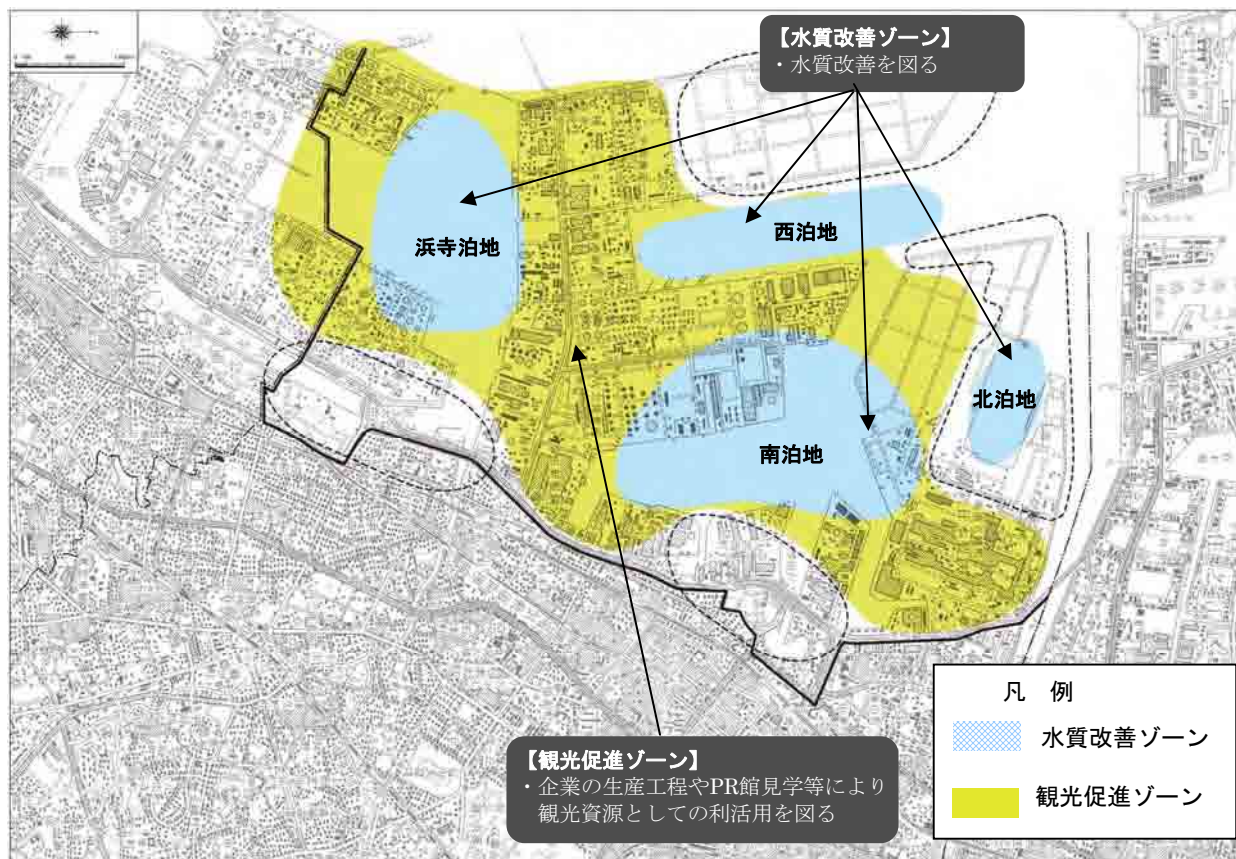


図 その他の臨海部の利活用ゾーニング

4.5.4 コンセプト実現に向けた課題及び活性化方策

その他の臨海部におけるコンセプト実現に向けた課題、活性化方策及び施策メニューは以下のとおりである。

表 コンセプト実現に向けた課題、活性化方策及び施策メニュー

コンセプト実現に向けた課題		活性化方策		施策メニュー ^{※1}	
①産業観光への活用	②水質環境の改善	①産業観光の推進	②水質改善に対する新たな海水交換技術の検討	③緑の質・量の確保及び被災につながらる緑化の推進	④地域間アクセスの向上
<p>大府下では、関西地域の産業・企業に関して学び、体験し、交流できるような産業関連施設（工場、企業博物館、研究所等）が開設されており交流の場が創出されている。</p> <p>コンヒナートや工場の夜間照明や煙突・配管・タンク群の重厚な「構造美」を愛でる工場観光（工場鑑賞）を趣味とする人々が増えている。</p> <p>堺日産につながる際瀬でのクルーズが運航されており、賑わいをなしている。</p>	<p>窪地では、海成低層の貧酸素状況が生じており、水質が低下している可能性がある。その結果、生物の生息環境が損なわれていると推察される。</p> <p>大阪湾の湾奥部においては、自漂レベルに到達しておらず堺臨海部でも同様の状況にある。</p> <p>土和川河口部に位置することから、河川からの流入ゴミが問題となっている。</p> <p>水深の維持が必要で、閉鎖性海域となる港湾施設としての水質改善が課題となっている。</p> <p>泊地の水質改善が課題となっており、水質が良く海水浴や海の生物との市民ニーズにおいては、水質が良くなる声が上がっている。</p> <p>触れ合いが可能な場所を望む等の声が上がっている。</p> <p>大阪湾の湾奥部の水質改善のためには海水交換を行うことが重要であり、これを実現するためには臨海部において大和川や石津川等からの流入を活用して停滞している海水を循環させる必要がある。</p>	<p>民間企業の見学やそれらへの新たな遊覧クルーズの誘致等主にソフトウェアから産業観光の推進を図る。</p>	<p>海域底層の貧酸素水塊に対する新たな海水交換技術の検討</p>	<p>緑の増量に加え、災害時の被災を見越した視点から戦略的に緑化の推進を図る。</p>	<p>工場見学やPR館などの運営</p> <p>工場群のダイナミックな景観・夜景を活用したクルーズ・ツアーなどの産業観光への活用</p> <p>叩での活動紹介、市の広報誌への掲載、臨海部立地企業の活動貢献に対する表彰の実施</p>
<p>窪地では、海成低層の貧酸素状況が生じており、水質が低下している可能性がある。その結果、生物の生息環境が損なわれていると推察される。</p> <p>大阪湾の湾奥部においては、自漂レベルに到達しておらず堺臨海部でも同様の状況にある。</p> <p>土和川河口部に位置することから、河川からの流入ゴミが問題となっている。</p> <p>水深の維持が必要で、閉鎖性海域となる港湾施設としての水質改善が課題となっている。</p> <p>泊地の水質改善が課題となっており、水質が良く海水浴や海の生物との市民ニーズにおいては、水質が良くなる声が上がっている。</p> <p>触れ合いが可能な場所を望む等の声が上がっている。</p> <p>大阪湾の湾奥部の水質改善のためには海水交換を行うことが重要であり、これを実現するためには臨海部において大和川や石津川等からの流入を活用して停滞している海水を循環させる必要がある。</p>	<p>窪地では、海成低層の貧酸素水塊に対する新たな海水交換技術の検討</p>	<p>海域底層の貧酸素水塊に対する新たな海水交換技術の検討</p>	<p>緑の質・量の確保及び被災につながらる緑化の推進</p>	<p>各種計画法の緩和や「緑の工場ガイドライン」による更なる緑の質・量の確保</p> <p>市民の団立地の外周部に海からの景観やヒートアイランド対策に加え、震災にもつながる緑の確保を誘導</p>	<p>深掘跡の浸透工砂や建設・産業副産物の活用による理屈し</p> <p>今後の臨海部の土地利用転換をにらみながら、潮汐や河川流など自然の力を利用した泊地間の海水交換促進（「水の道」の形成）や霞砂の検討</p> <p>臨海部のコンヒナートから排出される排熱等の未利用エネルギーの企業間の相互利用との連携を図りつつ、深掘跡の冷熱を活用した蒸留質酸素水塊改善と循環型エネルギー利用を乗証実験等により検討</p> <p>クリーンキャンペーン等の実施による市民の環境意識向上</p>
<p>堺臨海部は、堺北臨海工業地帯の一部を形成しており、地味内には数多くの工場建物が立地している。そのため、地区全体としての緑地が不足している。</p> <p>海辺景観だけでなく、緑の確保が求められている。</p> <p>市民ニーズにおいては、工業地区における景観や環境に配慮した政策を望む等の声が上がっている。</p>	<p>堺臨海部の各重点地区個別のアクセス性だけでなく、回遊性向上等、臨海部全体としての魅力を高めるために地域間のアクセスを向上を図る。</p>	<p>堺臨海部の各重点地区個別のアクセス性だけでなく、回遊性向上等、臨海部全体としての魅力を高めるために地域間のアクセスを向上を図る。</p>	<p>堺臨海部の各重点地区個別のアクセス性だけでなく、回遊性向上等、臨海部全体としての魅力を高めるために地域間のアクセスを向上を図る。</p>	<p>各種交通手段（阪堺電気軌道、海上交通、自転車道等）による重点対象地域間の連携</p>	<p>各種交通手段（阪堺電気軌道、海上交通、自転車道等）による重点対象地域間の連携</p>

※ 施策メニューは活性化方策を見取するにあたっての一例であり、今後具体的な施策を進め確定されるものである。

活性化コンセプト：物流・産業機能と共存した観光産業や質の高い水と緑の環境空間の形成

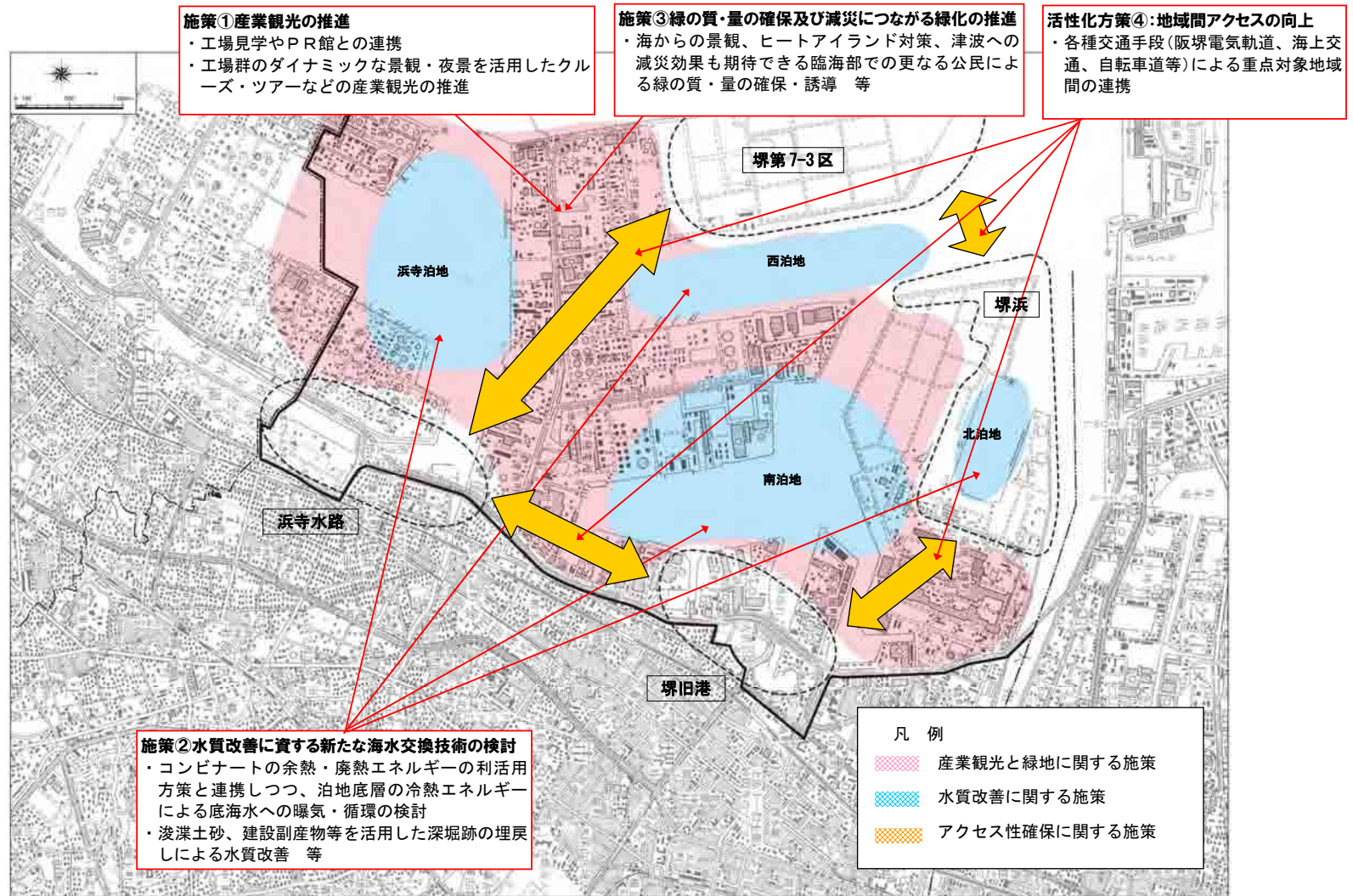


図 活性化方策の配置図（その他の臨海部地域）